

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名	小城市立三日月小学校
-----	------------

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

1 前年度 評価結果の概要	指導力向上を目指し、校内研修の授業プラン（各学年・特別支援）を中心に、働き方改革プランも行った。また、「元気で元気」では、全教員が授業公開または授業多岐を行い指導力向上につなげた。本年度は、地域や関係機関と連携して取り組む機会が増えた。 ・生徒指導案件について即報告即日対応ができたが、保護者との情報共有において時間差が起こったことで、事案を長引かせてしまうことがあった。保護者だけでなく職員間も含めて情報共有を確実に実行し組織で取り組むことを徹底していく。 ・特別支援学級入級、編入について、今年度ギリギリの対応となった。そこで、次年度に向け、前年度から対応していく流れを作成した。今後、円滑に校内支援委員会へ結びつける計画表の確立を図り進路支援を行っていく。 ・「よいところを認めている」ということに対して、児童も保護者も肯定的である。今後も継続して自己肯定感を高め、安全・安心な環境を作っていく。
------------------	---

2 学校教育目標	ともに なかよく かしく たくましく ～元気！笑顔！三日月サイコー！【ともに誇れる学校】～
----------	--

3 本年度の重点目標	①安全・安心な環境づくり ③特別支援教育の視点をベースとした個への支援と集団支援との融合 ⑤一貫性ある学校教育目標、学年・学級目標と、学年グループによる協働体制の推進	②確かな学力、豊かな心、健やかな身体を育むための指導法・指導体制の充実 ④質の高い教育に向けた教職員の業務改善推進と行事等の見直し
------------	---	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目										
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○授業力向上を目指した校内研究(国語科)及び校内研修の充実	○年間計画の「読むこと」のジャンプの単元で、十分達成している、おおむね達成している児童の割合を80%以上	・年間を通して言語活動に関連をもたせ、継続して取り組み、読解力の定着を図る。 ・すべての教科で「学習の流れ」を黒板に示すなど配慮し、児童に学習の見通しをもたせる実践を通して、児童の主体的な学びを推進する。	A	・年間を通して言語活動に関連させた単元計画を立て、継続して取り組むことで、話し合いの持ち方や、思考操作などの定着を図ることができた。「読むこと」のSTEPの単元で肯定的評価93%。 ・板書カードを使って児童に学習の見通しをもたせていると回答した教職員は78%だった。それに対して、学習に主体的に取り組むことができた回答した児童が90%以上だった。	A	・「計画的に言語活動に取り組み、読む力の定着を図っている」と回答した教職員は、98%だった。「考えの理由を教科書の文から探すことができて」と回答した児童は、低学年94%高学年90%だった。 ・板書カードを使って児童に学習の見通しをもたせていると回答した教職員は100%だった。それに対して、学習に主体的に取り組むことができた回答した児童が90%以上だった。	A	・「わかる一歩いいだけでなく、楽しさのある授業もあったいいのでは。学習にこだわらず楽しい時間をつくるのが意欲の向上につながる。 ・食、運動、睡眠でたくましさ高めることが学力向上にもつながる。 ・板書カード100%と先生方がそろえて取り組んでいることが素晴らしい。 ・視覚支援が学習を支えている。	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「思いやりのある行動ができる」児童が90%以上	・「心で聴いて人づくり」を年間の重点項目として取り組む。 ・道徳の授業の計画的実施	A	・7月の三日月スタンダードチェック「人の話を見えて心で聴いている」と答えた児童が85%の学級が82%であった。 ・全学級、年に一回ふれあい道徳の授業公開を行う予定である。また、夏期休業中に道徳の研修会を実施し、評価の方法や効果的な発問、授業の具体的な進め方等について情報共有する機会をもった。	A	・「目で聴き、心で聴いている」と回答した児童は、低学年96%高学年90%だった。「目で聴き、心で聴く指導ができて」と回答した教職員は94%だった。 ・「子どもたちに思いやりの心を育む指導をしている」と答えた教職員は57.8%であった。「思いやりのある言葉づかいや行動ができて」と回答した児童は低学年94.8%、高学年90.5%だった。	A	・人の目を見て聴くこと(基本)の徹底の継続を図る。そして、相手の立場を感じることが思いやりを高める。 ・社会体育の指導では、低学年の児童は目を見て聴くことができないが4年以上になるとしっかり見て聴くことができています。	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○心のアンケート「学校が楽しい」児童が90%以上	・QUの結果を踏まえ学級や個人の現状把握と課題分析に努め状況に応じた手立てをとる。 ・心のアンケートから上がった事実について「即報告即日対応」を行う。	B	・6月のQ-Uの結果について、夏期休業中の研修会で現状把握と今後の手立てを話し合い、2学期以降実施する予定。 ・毎月のアンケート事案については、「即報告即日対応」ができた。6月の保護者アンケートであった事案については、担任と情報共有し、事実の確認と対応についての確認を行い、早期の解決を行った。	A	・Q-Uテストの結果をもとに、年間2回職員研修で現状把握と手立てを学年グループで行うことができた。級外など児童に係る職員とも積極的に情報交換や相談ができる雰囲気が高まった。 ・心のアンケートから上がった事実については、「即報告即日対応」ができていたと回答した職員は100%となった。担任等が1人で事案を抱え込むことなく、学年主任や生徒指導主任、管理職が連携を図りながら丁寧に対応を行うことができた。	A	・報告する事案は？→保護者対応した案件については報告をする。 ・保護者と情報共有の内容は？→相手に危害を加え、加害被害が発生した場合は連絡を入れる。 ・担任のみで抱え込まないように職員の人間関係も大切。先生達が元気な心でいることが児童に影響するので、余裕をもたせてほしい。	
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童80%以上	・善行児童に対してほめほめカード等活用しながらほめることを全職員で取り組む。 ・「むごんそうじで運づくり」を年間の重点項目として取り組む。 ・キャリア教育に取り組む(4,5,6年)	B	・週に1回のペースで全校放送にて善行児童の紹介を行った。各担任や級外職員からもほめほめカードでの紹介を募集し、8割以上のクラスでカードの提出があり、紹介した。 ・4月当初は新しい掃除区域ということもあり、落ち着きがなかったが、6月頃には落ち着いて取り組む姿が増えできた。 ・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童は79%である。2学期以降、6年生はわたしの夢(佐賀新聞に掲載)や4、5年生は総合学習で仕事について調べたり、10才のつどいで将来について考える授業を行ったりしていく。	B	・善行児童の紹介を継続していくことで、新たに善行を行う児童が3倍以上増加した。地域でもゴミ拾いなどの善行を行う児童が現れている。 ・「無言掃除指導ができて」と答えた教職員は95.6%だった。「無言掃除ができて」と答えた児童は低学年90.9%、高学年85.6%だった。 ・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童は84%とやや上昇した。タブレットを用いて仕事について調べ学習を行う中で、自分の適正を知り、どの職業に向いているかを知ることが効果的だった。	A	・ほめほめカードの取り組みがよい。児童センターでもほめほめカードを用いた良い行動がとれる子どもが増えている。 ・「無言掃除指導ができて」と答えた教職員は95.6%だった。「無言掃除ができて」と答えた児童は低学年90.9%、高学年85.6%だった。 ・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童は84%とやや上昇した。タブレットを用いて仕事について調べ学習を行う中で、自分の適正を知り、どの職業に向いているかを知ることが効果的だった。	
●健康・体づくり	①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい生活習慣の形成」	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童80%以上 ②「元氣カード」の取組ができている児童80%以上	・県教委主催のスポーツチャレンジに積極的に参加し、子どもの体力向上と心身の成長を促す。 ・「育友会と連携し、「早寝早起き朝ご飯」や「みかつきルール(ネットルール)」の推進を行う。SNS等の扱いについて講演会を実施する。	B	・「1日1時間以上、体を動かしていますか」に対し、「よくあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答した児童は86%であった。現状を維持しつつ、残る14%の児童の運動に対する意欲向上のために今後の手立てを話し合い、2学期以降実施していく予定。 ・元氣カードの取組で、朝ごはんを食べている児童は全学年95%以上、早寝ができている児童は80%未満であった。規則正しい生活習慣の定着に向けて啓発を継続する。	B	・「1日1時間以上、体を動かしていますか」に対し、「よくあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答した児童は、低学年で93.4%、高学年で84.9%だった。次年度は、より多くの学級で実施可能な形を検討したい。 ・朝ごはんを食べている児童はおおむね95%を超えていた。早寝ができていた児童は80%未満であった。引き続き規則正しい生活習慣の定着について家庭と連携できるような啓発を継続していく。	B	・児童センターでも、汗をかくてよく運動している。 ・送迎が増えている。一校区が広い。地域での保護者間の希薄さから集団で登校できない。登校班や子どもクラブの減少も影響している。 ・早寝の時間を学校ではどう促しているか？→三日月ルールで10時を目安にしている。育友会で取り組んでいた三日月ルールの継承確認が必要。 ・元氣な子と元氣のない子がはっきりしてきた。 ・習い事の割合調査をして指導に生かしてほしい。	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・校時表の改善、成績2期制により放課後の時間を確保し、教職員の心身の安定に努める。 ・長期休業時、行事等の調整を行い年休所得できる環境をつくり所得推進を図る	A	・通知表の前期の所見をなくしたことで、教職員の多忙化改善ができ、心身の安定につながった。 ・夏休休業中、学校行事自粛期間を設けることで、年休促進を図り、ほとんどの職員が年休を取得できている。	A	・通知表の後期の所見を計画的に記入できるように期間を区切って締め切りを設定したことで、教職員の多忙化改善ができた。 ・年休取得14日以上職員は、45%だった。また、10日以上職員は75%となった。職員間での協力もあり年休取得しやすい環境をつくりやすくなっている。	A	・通知表の所見を減らしたことで、保護者からの意見はないか？→特に注意をもらっていない ・年休取得を達成できていてよい ・職場環境の向上は子どもへの指導の質の向上につながる。	
●特別支援教育の充実	○個別に支援が必要な児童に対する支援方法の検討、実施、評価	○個に応じた支援を心がけた教員90%以上	・個別の支援を基盤とした支援方法を全職員で研修し、共通実践化を図る。 ・児童支援委員会・学年部会で、児童一人一人のニーズについて話し合いを持ち、支援に生かす。 ・児童の自立に向けて、保護者や関係機関と連携し、先を見通した進路支援を行う。	A	・教師アンケート「個に応じた支援を心掛けることができた教職員」で肯定的な回答は97%であった。 ・通級教室の具体的な指導実践についての研修、夏期休業中に講師を招き、行動のアセスメントと支援方法について研修した。ほとんどの職員が参加し、共通実践への共通理解ができた。 ・児童支援委員会を適宜開催し、個に応じた支援について話し合いを持つことができた。 ・保護者面談を行い、児童の困り感を共通理解し、ニーズに応じた進路について情報を伝えることができた。また巡回相談や子ども支援センター、医療機関、療育支援センターと連携して支援を行うことができた。特別支援学級へ入級または転級の可能性のある児童については、前年度から情報を共有し引き続きこどもスームズな進路支援ができた。	A	・教師アンケート「個に応じた支援」に関しては、研修したことを生かして実践を行い、100%の教職員が「支援できている」と回答した。 ・適宜、児童支援委員会を開催し、個別支援について、関係職員とも共通理解して支援に取り組むことができた。 ・保護者面談を行い、児童の困り感を共通理解し、ニーズに応じた進路について情報を伝えることができた。また巡回相談や子ども支援センター、医療機関、療育支援センターと連携して支援を行うことができた。特別支援学級へ入級または転級の可能性のある児童については、前年度から情報を共有し引き続きこどもスームズな進路支援ができた。	A	・支援学級の増加により、教室不足になっていないか？→2教室を分割して使用しているが、今後学級減が予測されるため、今のところ是对応できると判断している ・就学相談への保護者の意識が変化してきていて、積極的に相談し、困り感に対して個別支援を望むところが増えている。また、子どもの様子に心配があり、相談を受けることで安心につながっているところもある。 ・支援学級の先生方が研修を重ねることで支援のばらつきが減ってきた。保護者や子どもの安心につながっている。 ・グレーの児童を学びの通級指導教室へ入れて試す保護者が増えてきているが、適切な支援を受けることができず児童に負担がいくことを心配している。 ・特性等の悩みについては担任に相談すると思うが、担任によってその後の対応が変わることはないか？→担任から特別支援Coの3人や通級指導教室担当に相談が行き、児童支援委員会へつなげる仕組みができているため、担任による差はない。	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○地域連携	○地域への貢献	○学校や地域で「進んであいさつ」をしている児童が80%以上 ○道路横断時「会釈をしている」児童が60%以上	・「進んであいさつで心ひらき」を年間の重点項目として取り組む。 ・交通当番を活用した指導 ・ほめほめカードによる善行紹介	A	・全職員での共通理解のもと、挨拶の大切さについて、それぞれ指導を行った。 ・交通当番の際にも、児童への声かけを行ったり、会釈をしている児童を放送で紹介したりした。地域からも挨拶が上手になっていることを知らせてもらった。	A	・「進んで挨拶をしている」と肯定的に答えた児童は、90%を超えている。 ・止まってくれた車への礼も89%の児童がしていると回答した。	A	・児童センターでは、「こんにちは」「ありがとうございました」と言う児童が増えている。 ・目立たない様子でも、よく観察するとほとんどの子があいさつを交わしている様子がうかがえる。 ・横断後の礼も増えてきている。 ・地域の一人という自覚が思いやりの心の育成につながる。地域の者も連携していききたい。	
●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志と誇りを高める教育										

5 総合評価・次年度への展望	授業力向上を目指し、今年度は小城市学力向上研究会の発表に向けて校内研の授業グループ(各学年・特別支援)間で検討を重ね、全員が授業実践を行いながら授業づくりに取り組んだ。グループで作り上げた授業を若手も経験することで、質の向上に結びつける姿が見られた。今年度の実践を引き続き次年度まで生かしていく方向性を確認した。 ・SNS関連での生徒指導事案が多く発生した。学校での計画的な情報モラル教育の充実と、育友会と協力した「三日月ルール(各家庭でのWiFi環境使用のルールや使用時間の徹底)」の双方方向での対応を次年度は構築していく。 ・特別支援等、担任の気づきや保護者からの相談に対して、特別支援Coを中心に円滑に児童支援委員会へ結びつける仕組みをチャート図で表し計画的に支援を行っていく土台づくりができた。次年度は全職員への周知徹底を図ることでより円滑な支援体制をつくっていく。 ・「進んであいさつ」が浸透してきている。今年度は、特に横断後の会釈に力を入れた結果、地域の方から肯定的なご意見やご連絡をもらうことが増えた。地域の一人として、次年度も地域の方と連携して取り組んでいく。
----------------	--